

平成 29 年度ちよだ生物多様性大賞結果報告

1 目的

生物多様性の保全活動の裾野を一層広げることを目的として、「生きものに優しい」活動をする人を顕彰する制度である。

※都内自治体で初めて創設

2 応募対象者

区内で生物多様性の保全活動等を行っている個人、団体、事業者等

3 選考対象となる活動

- (1) 生物多様性の保全に関する活動
- (2) 生きもののネットワークづくりに関する活動
- (3) 生物多様性の普及啓発に関する活動
- (4) その他生物多様性の推進に資する活動

4 募集期間

平成 29 年 6 月 1 日～9 月 30 日

5 PR 方法

区報、ツイッター、フェイスブック、ホームページ掲載
チラシ配布（図書館、出張所等）

6 応募件数 7 件

【内訳】

応募者分類	件数
個人	2
大学ゼミ	1
学校	1
団体	1
事業者	2
合計	7

7 選定結果

選定結果	応募者	分類
最優秀賞	法政大学 人間環境学部 高田ゼミ	大学ゼミ
入賞	川村 善次	個人
入賞	安達 優二郎	個人
入賞	麴町学園女子中学校	学校
入賞	トリプター	団体

8 選考者

ちよだ生物多様性大賞選定委員会（平成 29 年 11 月 9 日開催）

【委員】

	氏名	役職
委員長	亀山 章	東京農工大学名誉教授（植物専門家）
副委員長	加藤 和弘	放送大学学園教授（鳥類専門家）
	矢島 稔	群馬県立ぐんま昆虫の森名誉園長（昆虫専門家）
	宇佐美 奈誉実	千代田区生物多様性推進会議 区民委員
	上川 万里子	前 千代田区生物多様性推進会議 区民委員

9 受賞内容

別紙参照



法政大学 人間環境学部 高田ゼミ

千代田区の緑・水辺・生物の魅力発掘と発信

活動目的	自然の魅力を探り出し、区民に都市の自然への新鮮なまなざしを提案する
活動場所	千代田区を中心とした地域 (緑地・水辺など)
規模	教員1名、学生155名 (各1~3年間、2017年度は70名)
開始時期	2013年4月から
活動内容	都市の生物多様性に関わる「生物」「緑地」「水辺」「暮らしと文化」「周囲との関わり」の5つの視点から、千代田区の自然が持つ魅力を探り出し、学生の感性で調査・分析を行いました。多くの区民の皆さんにその魅力を発信するため、ユニークな発想で編集した冊子の配布、SNSでの情報発信、あるいは探鳥会の開催やシンポジウムへの参加など、さまざまな普及活動を積極的に展開しています。

評価のポイント

若者ならではのわかりやすい観点から調査、分析、情報発信を行っているため、区民にとっても親しみやすい内容になっています。この活動は、大学のゼミの授業としても確立しており、継続性がうかがえ、今後の発展が期待されます。

冊子の構成やデザイン、SNSによる情報発信など、若者の視点が活かされており、素晴らしい活動内容です。



冊子で 魅力発信



Instagram



緑地MAPのチラシを制作

SNSを利用した 情報発信



野鳥識別技能を高めるための トレーニング用アプリを Google Drive上に作成



Twitterを使用



受賞者のひと言

■□□□■□□□■□□□■□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□



川村善次さん

北の丸公園の植物観察記録

活動目的 北の丸公園の植物を生態系の視点から長期にわたって観察し記録する

活動場所 北の丸公園

規 模 個人

開始時期 1994年2月から

活動内容 退職後23年にわたり、週に1~2回、北の丸公園の植物を生態系の視点から観察し続けています。これまで撮影した写真を整理しながら、景観や樹木、野草、植物群落の遷移などの視点でまとめました。写真は植物の仕組みがわかるように撮影しています。北の丸公園の生態系の豊かさを伝えられるよう、これからも記録を続けていきたいと思っています。

評価のポイント

長期間にわたって、地道な活動を継続した成果として、貴重な植物の情報が蓄積されており、個人の活動としては非常に優れています。

写真撮影のレベルも高く、あたかも「北の丸の植物図鑑」と言っても過言ではない力作がそろっています。今後は、この成果を広く公開し、北の丸の生態系の豊かさを広く伝えてほしいと思います。

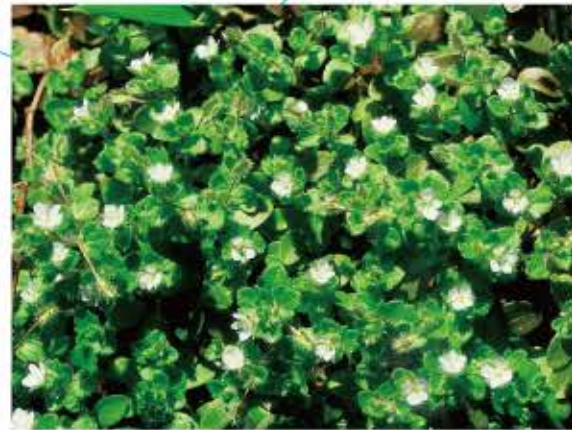


アリアケスマレ

これまで撮影した写真



カラタチの果実



フラサバソウ

受賞者のひと言

■□□□■□□□■□□□■□□□■□□□
□□□■□□□■□□□■□□□■□□□
□■□□□■□□□■□□□■□□□■
□□□■□□□■□□□■□□□■□□□
□□■□□□■□□□■□□□■□□□



安達優二郎さん

皇居周辺のアゲハ等の多様性に関する観察記録

活動目的 自然環境に恵まれた皇居周辺の豊かな生きもの達について関心を持ってもらい、また環境意識の向上につなげる

活動場所 皇居周辺・お堀端

規 模 個人

開始時期 2009年から

活動内容 幼少の頃より昆虫少年でしたが、2009年に戦没者墓苑において、ミヤマカラスアゲハ、モンキアゲハ、ナガサキアゲハなどを立て続けに目撃したのを機に、現在まで毎週末、チョウやトンボの観察を続けています。動画と静止画で記録を残し、観察日、場所、変遷、種の特徴などをまとめています。少年時代のアゲハやトンボ類についても、テキストデータとして記録しています。

評価のポイント

活動の継続年数が長く、区内のチョウの貴重な情報となっています。時間をかけてシャッターチャンスを狙って撮影した写真も多く、個人の活動として非常に優れています。千代田区内の豊富な生物多様性を広く皆さんにも知ってほしいという思いから今回応募されたとのこと。チョウやトンボに関する専門性の高い貴重な情報ですので、今後は情報の公開を期待します。



ミヤマカラスアゲハ 戦没者墓苑で撮影

動画や写真で記録を残す



ナガサキアゲハ 戦没者墓苑で撮影



ミヤマカラスアゲハ 代官町通り沿いの土手の上で撮影

受賞者のひと言

■□□□■□□□■□□□■□□□■□□□
□□□■□□□■□□□■□□□■□□□
□■□□□■□□□■□□□■□□□■
□□□■□□□■□□□■□□□■□□□
□□■□□□■□□□■□□□■□□□



麴町学園女子中学校

北の丸公園の環境保全と生物多様性の学習

活動目的 学園近隣の自然や景観に関心を持ち、保全のための活動に参画する態度を養う

活動場所 麴町学園および北の丸公園

規模 2016年度中学1年生および
2017年度中学1年生(計127名)

開始時期 2016年5月から

活動内容 2016・2017年度の中学1年生を対象に、「みらいセミナー」の授業で、環境保全や生物多様性をテーマにした学習を行いました。

明治大学教授を招いた講演や、夏休みを利用した北の丸公園でのフィールドワークを通じて学んだ内容を学園祭で発表しました。また、その学習成果物を区の環境作品展にも出展し、広く学外にも発信しました。

評価のポイント

生物多様性の視点が授業の一環として組み込まれており、体験学習が繰り返されています。北の丸の自然の中で、生徒たちが意欲的に学習している様子がうかがえます。学校における生物多様性に関する取り組みとして、先進的な事例です。広く学内外に発信しているようなので、こうした学習活動が他校にも波及していくとよいと思います。

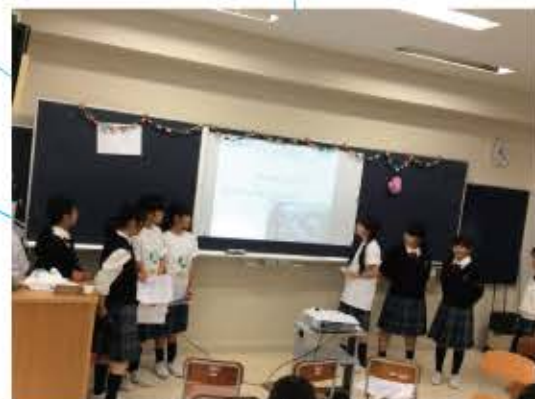


北の丸公園でのフィールドワーク



フィールドワークの成果を模造紙にまとめる

生物多様性を
テーマにした学習



フィールドワークの成果のプレゼン発表練習



明治大学倉本教授による講演

受賞者のひと言

■□□□■□□□■□□□■□
□□□■□□□■□□□■□□□
□■□□□■□□□■□□□■□
□□□■□□□■□□□■□□□
□□■□□□■□□□■□□□



トリプター

千代田区における身近な自然に親しむ活動

活動目的 身近な自然に親しみ・学び・考え・行動するきっかけづくりのため、また子どもたちの自然科学への興味・関心を深めるための活動

活動場所 千代田区内

規模 各回親子20～50名

開始時期 2015年3月から

活動内容 環境団体と連携し、自然観察会やワークショップなどを季節ごとに開催することにより、自然保護・環境保全の普及啓発活動を行っています。子どもの頃から身近な自然に親しんでもらうため、千代田区の自然教育や生物多様性に関する体験学習の機会を広く提供しているほか、区内の生きものや環境に関する情報を独自の視点で発信しています。

評価のポイント

これまでの活動実績が豊富で、活動の内容也多岐にわたっています。活動の回数や各回の参加人数も多く、イベントとして確立されています。未就学児とその保護者を対象にした自然観察会など、自然を通じた子育て支援の取り組みは、貴重なものと言えるでしょう。今後は、活動の成果を広く発信して行ってほしいと思います。



いきものさぐりの様子



リースづくり

自然観察会や
ワークショップを開催



読み聞かせ



冬の自然観察会

受賞者のひと言

■□□□■□□□■□□□■□
□□□■□□□■□□□■□□□
□■□□□■□□□■□□□■□
□□□■□□□■□□□■□□□
□□■□□□■□□□■□□□